

利他的な姿勢で

—世の中の問題、顧客の問題解決に取り組む

ヴィラベルディテナント委員長

家具製造販売のオールテック(有)

インテリアストリートカンパニー(株)

社長 堤 良二さん

今月注目するのは、堤 良二さん(四十二)。ヴィラベルディでカフェ「Cafe de Ross」を経営しておられる。ヴィラベルディではテナント委員長も務めておられる。また、家具製造販売のオールテック(有)、インテリアストリートカンパニー(株)の社長でもある。

まず、オールテックについて伺った。売り上げの実に九割がインターネット販売という会社である。十二年前、ジャスコを退職、

父から会社を引き継ぎ、社長となった。いまでは、楽天で家具売り上げ上位に顔を出すこともあるようになった。順調である。ネット販売を始めるきっかけは何だったのだろうか。

「大川インテリア塾です。デザイナーコースでインターネット販売の先生に出会いました。その方に背中を押される形で始めたのがきっかけでした。」

ネット販売がうまくゆく秘訣を聞いてみた。こんな答えが返っ

てきた。「①観察。問題点を見抜くこと。②分析。問題点の背後にある原因を見極める。③判断。原因に対する対応策を実行に移す。こうしたサイクルの繰り返しだと思います。冷静に常に考え続けることが大事ではないでしょうか。」

元々父親の代から通販を手がけており、その手法による薄利多売のノウハウを持っていたことも大きかった。

さて、インテリアストリートカン



『Cafe de Rosso』店内にて



杉材の製品が特徴的

パニー(株)の方はどうだろうか。やはりインターネット販売の会社である。でもオールテックとのちがいが興味深い。「基本的に工場を大川に限定すること」といわれる。どういうこと?「大川で

作られた、大川家具に限定しています。自社製品と共に、大川の他社とタイアップして、企画した製品を販売します。今後いろいろな会社と連携していきたいですね。それが地域振興に役立つばと思っています。」

二社製品の特徴は杉材である。なぜだろうか。環境に対する思い入れが強いからだ。堤さんは、森林との共生をとっても大事にしている。

五月二十六日に大川市、大木町、筑後市で開催した、「第十八回環境自治体会議ちっご会議」で森林との共生と関連する「杉の家具作り」のテーマで、堤さんは意見発表をした。「杉は国産が豊富です。以前はそりが大きいため家具材に向かないとされてきましたが、薫煙熱処理で解決されました。活用するほど国内の森林循環を促し、輸送時の燃料消費も少ないのです。」実際、扱う製品の三割は杉材の家具になっているそうだ。

さて、話を伺ってみると、堤さんの利他的な思いが伝わってくる。そこで、仕事の目的は?という質問をぶつけてみた。「問題を解決することです」と言われ



明治橋の花壇

る。「仕事は営利ですが、利他的な視点で、世の中の問題、顧客の問題解決に取り組む姿勢を大事にしています。そんな中、多くの人たちとの心の交流。出会い。感謝されること。自分の力や時間をあたえることで、言い尽くせない喜びや幸福を感じています。利己的だと実につまらないと思うのですよ」

また、週に二度、ヴィラベルディのカフェのスタッフとともに、東町周辺などへゴミ拾いに出かける。未来塾のメンバーとして、明治橋の花壇に花を植えたり草取りをしたりする。「修行のようなものだと思つてますよ。でも当事者となつて自分のことができることを行つていくのは楽しいですね。」と言われる。



ヴィラベルディ

さて、ヴィラベルディのテナント委員長の立場でお話を聞いてみよう。ヴィラベルディは、今年度、国からの平成二十二年度中小商業活力向上事業の補助を受け、総額九三二万円の事業を行う。堤さんは、その実行部長。どんな事業をされるのだろうか。

「まず夏の夜市ですね。それから秋の木まつりの時期に、カントリーフェアを開く予定です。木工まつりが有田の陶器市のように町全体で盛り上がるように、サテライト会場の役割を果たせればと思つています。また



こどものくに

雑貨、小物の十五組の作家たちの展示会を同時開催します。」

そしてもう一つ。それは「こどものくに」。「地域の子育て支援に貢献していきたいと思つています。いまでも一つの店舗を当てる、子育ての勉強会などを開いています。これから絵本や本棚を充実させていきます。気軽に子供連れの若い主婦が立ち寄れるようにしていきたいと考えています。」

利他的で、自分を与える精神をもたれる、堤さん。とても楽しいインタビューができた。